

# OBON 2015

個人の遺留品をご遺族の元へ



誰でも一人一人に家族がいます

## 戦後 70 周年

過去数年間、我々は、日米間の戦争を振り返る平和式典に参加しようとしていました。特に、日米両国の家族と共に戦後の平和や和解を称え合うような式典を探していました。

日系アメリカ人の組織、アメリカ政府、政治家やビジネスマンなど多くの方に尋ねましたが、驚くべきことに、両国の間には、このような式典や機会は見当たりませんでした。

そこで、我々が独自にそのような式典を開催することにしました。無残な戦争から 70 年を経て、日米の家族が持つ絆によって、和解と未来の平和を誓えるような式典にする予定です。

## 目次

Page 2: ご協力有難う御座いました

Page 3~5: 三川内

Page 6: 調査の一例

Page 7: 連絡先・寄付のお願い

# ご協力有難う御座いました。

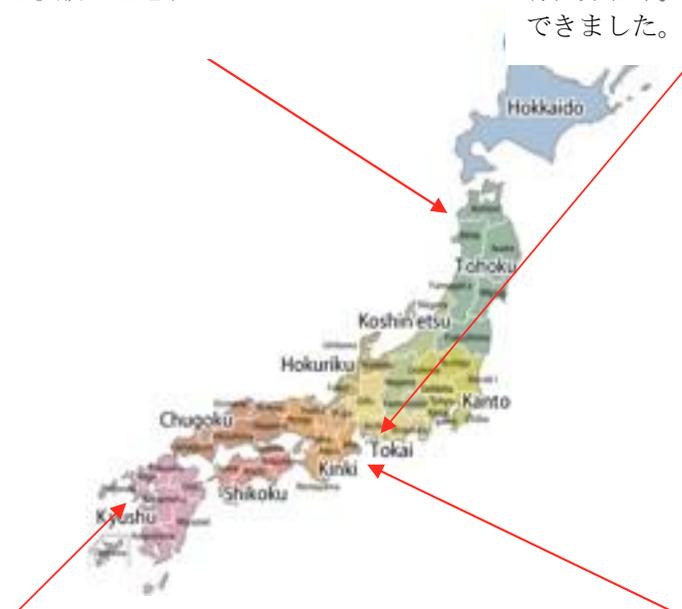
このニューレターの発行が遅れたことをお詫びします。この間、我々は日本へ出張し、お預かりしていた4枚の日章旗を、元の持ち主に返還することができました。



下田俊雄命。青森県の弟様と親戚に返還することができました。



青山芳春命。愛知県の甥に返還することができました。



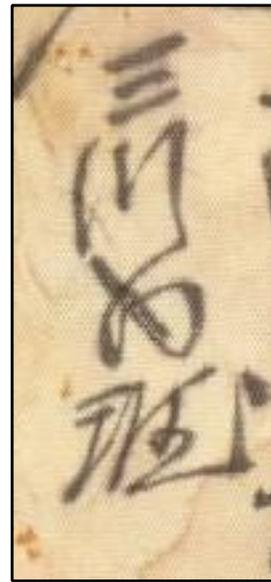
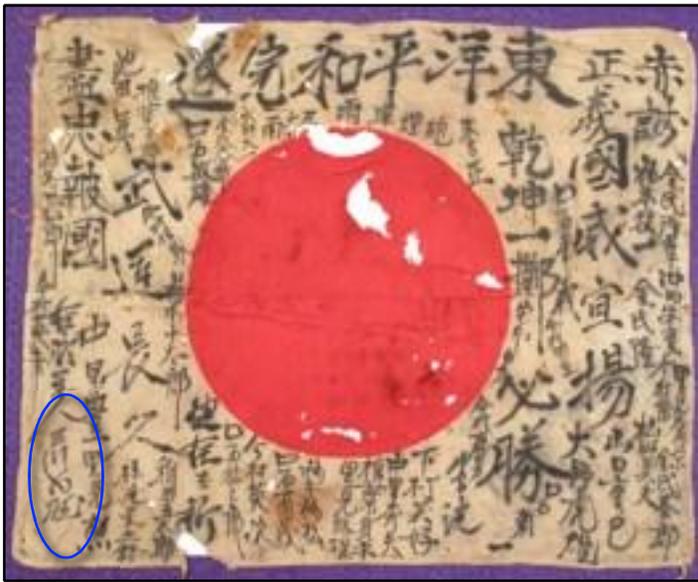
持ち主は不明ですが、長崎県三河内の皆様に返還することができました。



伊藤昭喜命。三重県の奥様に返還することができました。

## 三川内

数ヶ月前、OBON2015 は非常に珍しい旗を受け取りました。通常の日章旗の大きさではなく、標準紙サイズ（訳注：215 x 279 ミリ）しかない小さい旗でした。特定の兵士の名前が見当たらなかったのですが、持ち主を見つけ出すことは不可能に思えました。



“三川内”

詳しく見ると、旗の一部に「三川内」という文字が見えます。また、旗には40の署名があるので、その内一人でもこの旗のことを覚えていてくれれば、と調査員達は希望を繋げました。

数ヶ月後、「三川内」とは長崎県佐世保市中心部から約20キロ離れた小さな集落の名前であることが分かりました。

この日章旗の事が集落に知れ渡ると、旗に書かれていた多くの名前は、地元出身者であることが判明しました。住人の方々は、この日章旗の返還を強く望んでいました。我々がちょうど日本を訪れる予定であることを伝えると、我々が直接旗を返還できるよう、集落に招待してくださいました。

驚いたことに、そこは優れた陶磁器で有名な土地でした。特殊な岩石を粉末化し、粘土と混ぜ合わせた後、摂氏1000度で焼かれた美しい純白の陶磁器は「三川内焼」と呼ばれ、数百年に及び受け継がれています。



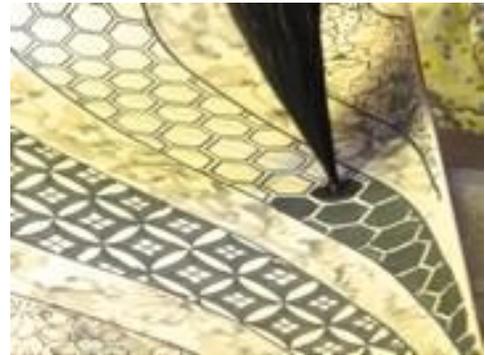
## 三川内



三川内は、いくつかの丘に囲まれた小さな集落です。現在、ほとんどがガス窯となっていますが、20メートルを超える木窯もいくつか残っています。



巨大な磁器窯は内部が3x4メートルあり、高さも3メートルに及びます。一回入火すると、平均6週間、燃焼を続けます。



残りの工程も手作業で行われます。これらの技術は、過去15世代に渡り、父から子へと受け継がれてきました。



その優れた品質は、三川内の陶磁器職人の誇りです。この小さいながらも有名な集落で作られた陶磁器は、数々の美術館で展示されています。さらに、3世代前、時の皇太子殿下に作品を献上できたことは最高の荣誉です。

(訳者注：公式ページ <http://www.mikawachi-utsuwa.net/links/history/index.php> によると、200年に渡る御用窯だったようです。)



## 三川内



1月8日、この珍しい旗が三川内の公民館で公開されると、大きな話題となりました。九十歳の今村氏（上）は、2人の兄を含む全ての名前をご存知だそうです。地元の職人3人（左）も、それぞれの父親の名前を見つけ非常に喜んでいました。



長崎・佐世保の地元メディアは、このニュースに非常に興味を持ちました。テレビ2局と新聞2社の記者から取材を受けました。



多くの地元出身者に署名された、この日章旗は額に納められ、地元の公民館に祀られることになりました。



三川内山公民館は、巨大な陶器のパネルで覆われています。パネルには、1600年代初頭から脈々と受け継がれている陶磁器の製造工程が描かれています。

返還式の様子は、Youtubeでもご覧いただけます（2分48秒）。

<https://www.youtube.com/watch?v=R27BG5sXVso>

## 調査の一例

ミシシッピ州ハティスバーグ市から届けられた正方形の日章旗を見て、我々はとても驚きました。日章旗が正方形であることは、とても稀です。持ち主の姓名が分からない日章旗の調査は、たいへん困難ですが、我々の調査員は諦めず、地道に作業を続けます。

「八谷」警察署は、容易に福岡市に見つかりました。ただし、この警察署は現存せず、現在、豊前署に置き換われています。

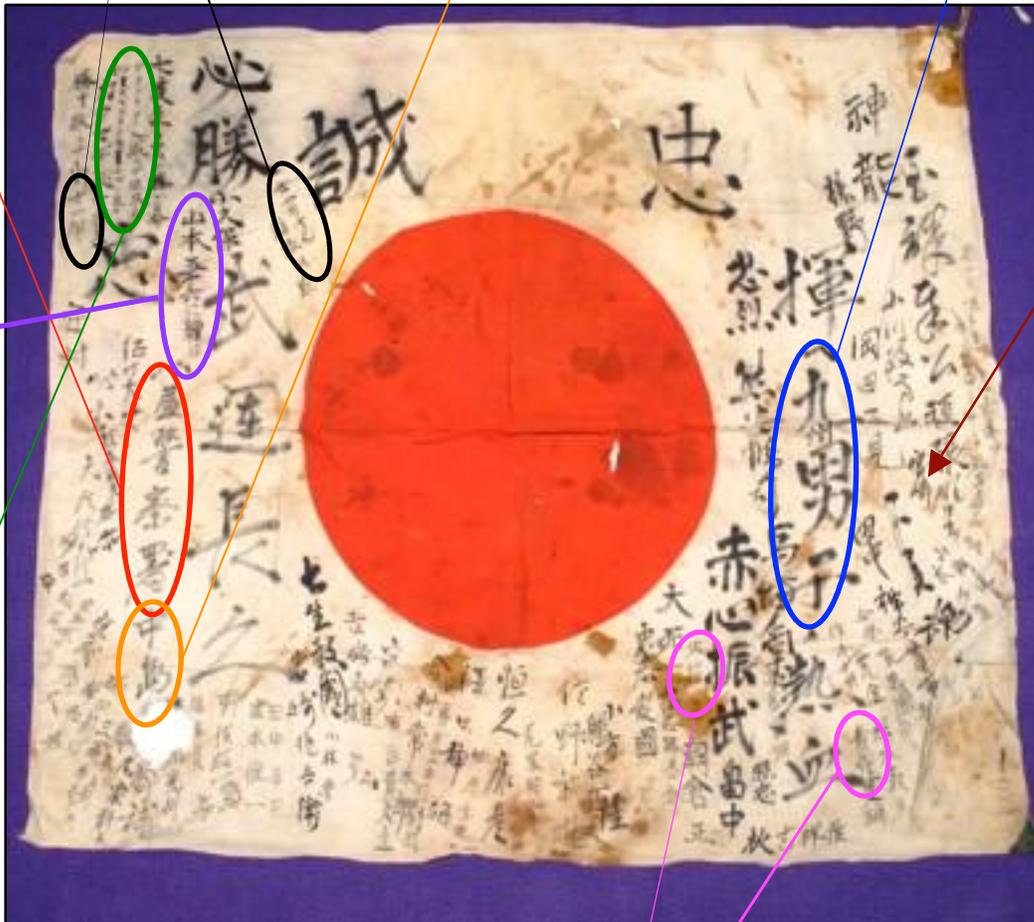
「九州男児」持ち主が九州出身であることを、調査員は確信しました。

「士一郎」名前と思われる記述ですが、読み方が不明です。「しんいちろう」「あきいちろう」

「中島」という姓を警察職員の古い記録から調べました。おそらく、彼がこの旗の製作者で、警察官だったと推測されます。

「山本五十六に続け」という標語から、この旗が1943年4月以前に作成されたと推測できます。

「ワシントン入城マデ頑張レ！！ ルーズベルト・チャーチルノ泣ク面カクマデ」という標語から、この旗が1941年12月から1942年春に作られたと推測できます。



この日章旗は、米陸軍航空隊第65爆撃大隊第43隊の元パイロットの家族から我々に届けられました。当初、彼はライフルを記念品として持ち帰ろうとしましたが、母国に持ち帰るのは困難だろうと考え、ライフルとこの日章旗を交換したそうです。ご家族からメッセージを頂きました。「我々一家は、この兵士の魂がこの旗と共に、もとの家族の下へ帰ることが出来るよう望んでいます。我々はこの旗が遺族にとって心の癒しとなることを望んでいます。」

調査員は、「青佐」と「火箱」という珍しい姓を見つけました。古い記録によると、福岡の街に多く見受けられるようです。これは、蜂谷署がかつて存在した場所とも合致します。さらなる調査により、家族の一員を見つけるべく努力を続けます。

訳注：その後の調査で、持ち主が判明し、ご遺族（妹様）の元へ無時返還することが出来ました。  
<http://www.obon2015.com/id/2014-1119-return.ipg>

# 寄付のお願い・連絡先

当団体は、皆様からの寄付により活動しています。

宛先

アメリカ在住の方 (501(C)3 を通じた税金控除の対象となります)

**AVA/OBON 2015**  
**P.O. Box 282**  
**Astoria, Oregon 97103**

日本在住の方

<ゆうちょ銀行からの振込>

記号：14450 番号：16577781  
名前：OBON ニセンジュウゴ

<他金融機関からの振込>

振込先銀行名：ゆうちょ銀行  
店名：四四八（読み ヨンヨンハチ） 店番：448  
口座番号：1657778  
口座名：OBON ニセンジュウゴ

（「OBON2015」は、2015年の日章旗返還を目指した、OBON ソサエティの前身名です）

皆様から頂いた寄付金により、より多くの遺品を返還することが可能になります。

日章旗をお持ちの方、また、所有されている方をご存知の場合は、当団体までご連絡ください。日章旗・その返還方法に関して、ご質問があれば、ご遠慮なくお尋ね下さい。我々は日章旗の返還に、使命と情熱をもって、取り組んでまいります。

**OBON Society**

P.O. Box 282

Astoria, Oregon 97103

[contact@OBON2015.com](mailto:contact@OBON2015.com)

